

令和4年度第1回釜石市総合振興審議会開催結果

- 1 日 時 令和4年7月13日（水） 13：30 ～ 15：30
- 2 場 所 釜石市民ホール TETTO ホール A
- 3 出席者 委員：36名中23名出席
市：市長、教育長、総務企画部長、市民生活部長、保健福祉部長、産業振興部長、建設部長兼復興管理監、文化スポーツ部長、危機管理監、教育部長、中村総合政策課長、川崎防災危機管理課長、藤井新市庁舎建設推進室長
傍聴者 0名
報道関係者 4名

4 結 果

- ・総務企画部長の司会で次第に基づき進行した。
- ・始めに、人事異動等に伴い新しく委員となった方々を代表して、伊東道夫委員に市長から委嘱状を交付した後、市長あいさつを行った。
- ・次に報告事項として、川崎防災危機管理課長から岩手県が公表した「最大クラスの津波浸水想定」について説明を行った後、質疑応答を行った。
- ・続いて、議事として藤井新市庁舎建設推進室長から「釜石市新市庁舎建設」について説明を行った。説明後、質疑応答を行った。

○市長あいさつ

今日は、令和4年度第1回釜石市総合振興審議会ということで、皆様方におかれましてはご多用のところご出席いただきまして、ありがとうございます。そして、ただいま委嘱をお願いしました委員の皆さんには今後とも、どうぞご指導をお願いいたします。久しぶりの総合振興審議会かと思いますが、今日、副市長は出張ため、欠席になっております。また、新たに部長に就任されている方々もおられますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

まず安倍元総理が倒れたということで、非常に残念に思っております。安部元総理には、この復興期間中大変お世話をいただきました。橋野鉄鉱山の世界遺産、明治日本の産業革命遺産の取組、ラグビーワールドカップの開催、折に触れて、随分釜石という名前を発信していただきました。また、道路整備、特に東北横断自動車道の釜石花巻間の道路の開通に当たりましては、遠野でオープニングの式をやった際、安倍元総理がこの道路は釜石港の発展に大きく寄与する、三陸沿岸の復興に大いに役に立つと、そんなふうなお話をされまして、大変感激を受けたことを今でも覚えております。いずれのこの復興に当たりまして釜石のみならず、岩手県の復興に多大なるご貢献をされたということで、改めて心から敬意と感謝を申し上げ、そしてまた、ご冥福をお祈り申し上げさせていただきますと思ひます。

まず初めに、皆様にお詫びを申し上げなければなりません。6月15日の広報で、市民の皆様方にはお知らせ、或いはお詫びをさせていただいておりますが、釜石市の元職員2名が情報漏洩ということで、住民基本台帳の情報をUSBに入れて、自宅のパソコンに入れたという事件が発覚いたしました。これは犯罪行為でございますので、警察の方に告訴いたしまして、現在捜査されているところでございます。警察官立ち会いのもとで、その情報が入っていたと思われるパソコンの情報については全て消去をされておりますし、現時点では外部にそういった情報が漏れたということはないということです。ただ、現時点でいうことでございますので、改めて警察の捜査を確認しながら、全ての捜査が終了した際には、もう一度皆さんの方にそういったことについて、情報提供させていただきたいと思っております。マイナンバーに関わる問題が発生いたしまして、住民基本台帳の中に600名程のマイナンバーが含まれていました。マイナンバーについては、国の所管でございまして、厳しく管理されているものでございます。それが流出してしまったということで、これについても、その該当する方々には事前にその状況のお手紙を出させていただいております。いずれその方々で不安に思っている方もおられるかと思ひますので、国の方

の指示対応というものを確認しながら、改めてその方々にもお知らせをさせていただきたいと思っております。ただ、現時点では特にこの外部に漏れた形跡がない、或いは全部情報は消去したということでございますので、これ以上の不安、心配はないのではないかと考えているところでございます。これはもう一度確認しながら皆さんにお知らせをさせていただきたいと思っております。いずれ、こうした不祥事を起こしてしまったということは、私も含めてですが、市の職員の管理体制が不十分であったため、このことを深く反省しながら、二度とこうしたことが起きないように改善策を講じていきたいと思っております。現在、副市長を中心に調査委員会を立ち上げておりますので、そちらの方で今後の進展についてはご報告をさせていただきたいと思っております。改めて、皆様方に心からお詫びを申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

現在は、コロナが一番心配されているところでございまして、変異株も出てきたということでございますが、岩手県内の各地区と比較すると、釜石は非常に少ない数で推移してきたのではないかと考えております。これは、小泉先生はじめ医師会の皆さんのご協力、或いは保健福祉関係の皆さんのご協力によるものでございます。ただ、昨日今日とまた増えてきまして、教育施設、或いは保育施設等でクラスターが発生しているということでございます。何とかこれを抑えながら、これ以上の感染が拡大しないように注意をしていかなければ駄目だと思っております。ワクチンの方も、3回目接種が終わりまして、もうすでに4回目接種がスタートしておりますので、まずは、ワクチン接種に皆さんのご協力を引き続きお願いしたいと思っております。また、同時にこの長いコロナ禍の中で、経済が非常に衰退をしているということでございまして、特に飲食店や宿泊業者、そういったところに影響が大きいわけでございます。何とかこれを改善したいということで、国とか県も様々な支援策を講じておりますし、市も支援策を講じていきます。そこに、今度はウクライナの情勢で、特に原油高、その他の物価高に影響しておりますので、今後の展開を大変心配をしているところでございます。引き続き、そういった方々にも支援を講じていきたいと思っておりますので、皆さんの方からも何かご指摘があれば、遠慮なくご意見をいただければと思っておりますのでございます。

そういった状況ではございますが、復興は10年ということで進めて参りました。ただ、水海地区の避難階段工事が終わっていないため、そこが終わればすべて終了ということになります。残念ながら10年には終わらなかったということで、大変申し訳なく思っておりますが、基本的な部分はすでに完了しております。当時まちづくり協議会という協議会を作って、例えば昨日は尾崎白浜だとか、佐須の方に行って参りましたが、その地区ごとに地域の皆さんと顔を交えて、この地区の復興はこうしよう、ああしようというような意見交換をしながら、工事を進めてきたわけでございます。11年目になってしまいました。今やっとその復興まちづくり協議会を閉じる会というものをやらせていただいております。本当は去年やろうと思っておりましたが、残念ながらコロナでできなかったもので、今開催をしているということでございます。そういうことで、復興の方も皆さんのおかげで、順調に経過してきたということについて、まずはご報告させていただきたいと思っております。ただ、ここにきて、皆さんご存知の通り、土砂災害多発しております。令和2年度の台風10号の時、今まで台風は沖縄とか九州に上陸するものだと思っておりますが、この東北の岩手に台風が上陸するという歴史的なことがございました。以来、局所的な大雨や土砂災害が多発するようになりましたが、地球温暖化のせいではないかと言われております。これはこの10年の間に大きく変わったことの一つでございます。さらに、皆さんご存知の通り、サケ・サンマ・スルメと言った主要な魚種、三種類が全然取れなくなってしまいました。当初は津波のせいだと言われており、専門の先生もそうだとおっしゃっていたのですが、ここ五、六年前から地球温暖化の関係で海上が変化したということが明らかになりました。今、専門の先生もそうおっしゃっております。従ってこの水産業は非常に厳しくなっておりますので、今は養殖の方に力を入れ始めているという状況でございます。これがこの10年の中で大きく変わった、また一つということになりました。

それから、この津波のシミュレーションが出されました。やっとこの10年経って、防潮堤、安全な高台もできて一安心と思っていた矢先に、最悪の場合のシミュレーションで考えると防波堤、防潮堤も壊れ、満潮時であれば浸水区域が広がり、浸水深も深くなるということが発表になりました。これは国の法律に基づいて、発表することになっておりましたので、これは粛々と受

けとめなければなりません。これに加えて、コロナやウクライナとありまして、復興が終了したという思いがなかなか感じられないような昨今になってしまったなと思っております。そういうことでございますが、市民の皆さんの期待に応えて、進んでいかなければならないと思っております。

この岩手県が示した津波のシミュレーションは、現在各地区で説明会を開催して、市民の皆さんにはご説明をしているところでございますが、改めて今日皆さんにも、そのことについてご報告をさせていただきたいと思っております。併せて、今日の大きなテーマは、新しい釜石の庁舎の建設についてでございます。以前、皆さんにもお諮りをして、今の釜石の東部地区の天神町、旧釜石小学校跡地に造りたいということで、皆さんにもご説明をさせていただきました。去年、議会で条例が議決され、新しい庁舎の住所も移したところでございました。ただ、その後に岩手県のこの津波のシミュレーションが出るということがございましたので、中断しておりました。そして、この3月に岩手県の発表がございましたので、それを受けて、もう1回新しい市役所の建設に向けての議論を再開させているところでございます。皆さんもご存知の通り、最初は鈴子の消防署のあるところにつくるという設定で、役所としてはそういう協議をずっとしてきたわけですが、震災前の段階で、やはり市役所は町の中心部にあるべきではないかという議論が出まして、その後、震災ということになり、また議論をしてきました。庁舎建設検討委員会、或いは全員協議会などでそういったところで議論をしてきたわけですが、考え方としては、東部地区の衰退、ますます人口が衰退したそういった状況の中で、釜石市役所が他の場所に移転するということになりますと、釜石の活性化には、大変損失があるのではないかというような意見が多くを占めました。それで、津波のことも考えたうえではございますが、釜石全体の総合的な活性化の点から、釜石の中心街に置くべきだろうという結論に達し、東部地区の旧釜石小学校の跡地に決定してきた経過がありました。今回の岩手県のシミュレーションでさらにこの浸水区域が広がり、浸水深も深くなるということが発表されましたが、それを受けても釜石の中心部に建設したい、もちろん、津波の恐ろしさなどを軽んじるという意味ではなく、当然津波が来る想定の上で、それなりの対策をしながら、今までの考えたとおりの方向性についてお示しをして、ご意見をいただければと思っております。この皆さんからいただいたご意見をもとに、さらに議会の議員の皆さんにも説明し、また庁舎建設検討委員会の委員の皆さんにも説明して、ご意見をいただきながら、最終的には市政懇談会等で各地区の市民の皆さんにもお諮りをして、また一巡りして、皆さんに報告し、着工というような形にしていきたいと思っております。まだまだ時間がかかる話ではございますが、一通り市民の皆さんのご理解をいただかなければならないと思っております。そういった意味では非常に大事な会議になると思っておりますので、どうぞ皆さんの忌憚ないご意見をいただければありがたいと思っております。有意義な総合振興審議会となりますことを心からお願いを申し上げまして、開会のご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○会長あいさつ

振興審議会は委員が変わりまして初めてです。津波のシミュレーションと新しい庁舎を旧釜石小学校跡地にもってきたいということ、みんなで一緒に話をしながら、意見を集約していくため、みんなで考えを持って進んでいければと思います。子供は減り、コロナは収まらず、あまりいいことはないですが、ただ一つ一つクリアしていかないと、次のステップに進めない、新庁舎の話と津波の話と一緒に少子化の話もみんなが一緒になって進んでいければと思います。コロナはとにかく抑えていきたいと思っており、インフルエンザのような新しいワクチンは、来年の冬ぐらいにできればいいという感じです。感染力が結構強い変異株になってきて、これからどんどん変異株が増えてくるということを言われています。ただ、ワクチンをしていても感染している方がいるため、ワクチンだけに頼るのではなく、もう少しみんなで気をつけて乗り越えていければと思っています。

今日の中心は津波の話と新庁舎の話のため、少子化やコロナについては中々触れる時間がないですが、また次ということにして進めていきたいと思っております。皆さんの忌憚ないご意見を持って進めていきたいと思っておりますので、どうぞご協力をお願いします。

○岩手県が公表した「最大クラスによる津波浸水想定」についての質問・意見等
(嶋委員)

何か今度の津波の浸水想定は身の毛がよだつような、そんなことがあるのかということなんですけども、国県の発表に対して、軽く思っているわけじゃないわけですが、これは、単に一つの想定なんです。前提条件を決めて、ここまで浸水しますということですから、前提条件が変われば当然浸水範囲も変わってくるわけです。釜石市の浸水想定これが最大かということ、もっと大きい地震があるかもしれない。或いは、洪水が襲っている時に津波が来ればどうなるんだと。埼玉県の鳩山町でも1時間200ミリ降ったというのが日常的に起きてますよね。そういう中で、この岩手県の解説書5ページでは、避難のための想定ということで、その後ろに、津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではないということがあるわけですが、これは条件に、津波に対する防潮施設、津波対策能力によって、浸水範囲が違ってくるのではないかということをおもうわけです。釜石市でも、特に釜石湾については、湾口防波堤という大きな施設があります。それから擁壁のコンクリートの防潮堤があります。東部地区に対しては、グリーンベルトという、土盛ですけども、土堤があるわけです。あと川には水門も作りました。もっと言えば、釜石バイパスも一応津波対策に全く役に立たないわけではないと思うところもあります。国の浸水想定への対策案は一応あるわけですけども、岩手県の発表をそのまま信じて、復興まちづくりを基準にした内容から大きく離れてしまうので、中々施策がうまくいかないと。実は私、今朝、県の合同庁舎の土木部に行って、この件についてお聞きしました。そして、これはそういう想定で浸水範囲を決めたもので、各地区の防災能力がどうであるかということまでは出しておらず、それを判断するのは、各地区、各自治体とのお話でした。ということで、直近では新市庁舎の建設をどうするかというのが大きな課題ですが、県の発表を100%信じて、もし将来的に天神町に建設して津波が来たら、津波が来るのがわかってたのになぜ建てたのと、これはもう明白なわけであり、一つの考えじゃなく、いろんな状況を総合的に見れば、ある程度安心はあり、県の発表に対しても、避難は完全に行い、色々な対策をとるということであれば、進め方もあると思います。そういう意味で釜石市が県の発表の浸水想定100%に縛られて、動けない状態をどのような判断で進めたいと思っているのか、そこをお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

(佐々木危機管理監)

県の想定につきましては、法律に基づいて最大被害を想定し、取組を進めていくといったことが法律の趣旨にありますので、県の方の想定があります。今ご意見にあったように三重の防御を東部地区はしており、それらがどのように機能するかといった部分を想定した中で津波を防ぎますが、最悪を想定しなければならないのでその対策をしていくというための今回の浸水想定です。全く三重の防御を無視した形でまちづくりを進めるといったことではないです。そこは基本にあったうえで、あとはその県の方の想定を現段階では最大として、避難対策を講じ、計画を立てていくといった流れになるかと思ひます。

(加藤委員)

実は地球温暖化がかなり進んでおりまして、このままだと海水面がかなり上昇すると思ひています。氷河もどんどん溶けていますし、南極の氷もどんどん溶けている状態で、そういう状態で海面が上がれば、この想定以上のことが起こり得るということを沿岸に住む者はわかっていなければならないというのが、この計画の目的だろうと思ひます。浸水区域の説明の中で破堤ありと破堤なしと裏表で示していただいておりますが、なぜ、破堤した場合と破堤しない場合を載せたのか、その理由を知りたいです。

(佐々木危機管理監)

とにかく最悪を想定するというので、最大の一番広い方の想定を皆さんには見ていただき、それを参考にして逃げていただきたいということがございます。ただ、一方で、今まで10年かけて復興の構造物等々を造ってきたわけです。それは、一定の基準に乗っ取って津波にも粘り強い構造だということで作ってきたところがありまして、それが全部壊れた想定も見な

がら、機能したらどうなのかというところも参考にさせていただきたいということで、つけさせていただきます。ただ、避難として活用するには、最大の方を参考にさせていただければよいと思っております。

(加藤委員)

湾口防波堤が最初に造られたときに、キャッチフレーズとして「100年の守り」とあったと思います。100年の守りは、100年しか守ってくれないのかと思っていましたが、人間の作る構造物は、造った途端に劣化が始まるわけで、そういうことを頭に入れておけば、破堤なしに重きを置かずに、破堤ありの方に重きを置いて、皆さんにわかっていただくことが大切だと思います。

(佐々木危機管理監)

最大の津波を想定しながら、これから我々の方では避難に対する計画といったものを進めて参りたいと思います。

(古川委員)

2点質問したいと思います。この間、県が公表した最大クラスの津波想定の説明を受けました。地域会議でも説明を受けましたし、学校の体育館でも説明を受けました。3.11から早いもので11年と4カ月が過ぎましたけれども、3.11の想像もできなかった大津波を我々は経験をしたわけです。そのわりには、体育館での説明会では予想外に参加者が少なかったと思います。地区によっては全然参加しない住民もいたということで、やはり11年も過ぎるとこんな感じなのかと思いました。本当に来なければいい大地震ですが、100歳まで生きれば、もしかして30年以内に80%の割合で来るかもしれないです。色々なテレビでもわかるのですが、津波は明日来るかもしれないし、いつ来るかわかりません。そういうことで、市内の4ヶ所で説明会をやることで、残り1ヶ所の残っているようですが、今までの3回の説明会では、他地域はどんな様子であったのかお聞きしたいです。やはり1人でも多くの人に来て説明を受けるのが、緊張感に繋がると思うので、その辺どう受けとめているのかもお聞きしたいです。

また、私は鶴住居の町内会の会長やっています。今回の浸水想定の説明の中で、今度は上中島の方まで行くという大きな浸水想定が予想されておりますが、避難場所は屋根もなく部屋もないです。3.11の時も経験しましたが、雪降る中で本当に震えていました。その後、鶴住居小学校の子供たちは、近くの消防団が中央高速の金網を破って、そこから当時の釜石中の体育館まで移動したという経過があります。それで、地域の色々な経験を踏まえて、今度はその後の大地震に備えていかなければならないですが、一番の心配は夜中にそういう大地震が発生した場合、屋根もなく部屋もない場所において、避難所にどうやっていくのかです。鶴住居や両石は孤立するので、中央高速しかないと思います。色々今まで要望を出したりして、昨日も担当者に来てもらい説明を受けましたが、やはり地域住民が心配なのは、1回避難してもそこからどこにいけばいいのかだと思います。これからの話だと思いますが、いずれ早急に町内会も頑張ってやりたいと思いますので、市の担当者の方々もよろしくお願ひしたいと思ひます。

(川崎防災危機管理課長)

市内の説明会の様子ですが、市内の4ヶ所全体の説明ということで、双葉小学校体育館で6月に説明会を開催しまして、その後、釜石東中学校の体育館、TETTOホールBで説明会開催しております。双葉小学校、釜石東中学校ではそれぞれ45名程度参加で、TETTOホールBでは27名の参加がございました。最終回、7月23日に唐丹中学校の体育館で説明会がございまして、こちらでもあわせて説明を続けて参りたいと思ひます。説明会で説明した印象ですが、新たに浸水範囲に入った上中島地区住民の皆様は、避難のあり方についてすごく関心があると思ひました。というのは、質問の中で、街中で今自分がいるところの東日本大震災の際の浸水深、或いは岩手県想定でどのくらいの浸水の高さにあるかというようなことを、街中に表示盤として表示して欲しいと質問がありました。それは、避難するための目安となり、それを見てより高い場所に逃げるといふような避難行動につなげたいというご意見がございました。もう一つは、車両

避難のあり方についてです。防災会議釜石、岩手県もそうなのですが、津波避難からは徒歩で避難することが原則となっています。これは東日本大震災の時に警察も機能してない、信号機も機能してないところで渋滞が起き、車両で被害に遭われた方がいるため、徒歩の避難を原則にしていますが、地域の実情、場合によっては年配の方で避難行動が取りにくい体の不自由な方の避難というようなことを想定しますと、車両避難も必要なのではないかというご意見もございました。やはりご意見いただきましたとおり、震災から11年経過していく中で、当時の振り返りと反省、教訓を生かした避難行動、防災行動が必要だということを改めて主催者側として認識した次第でございます。こちらの説明会の意見等を踏まえまして、緊急避難場所、例えば鶴住居地区の地域会議では新たに浸水想定入った川目地区の方から、緊急避難場所を新たに見出したいということで先日も現地を一緒に歩いて、適切な場所を見出しております。ですので、一旦、9月を目途に、そういった新たな緊急避難場所、或いはもう浸水してしまう緊急避難場所の見直し、これを適切な避難行動に繋がるように見出して参りたいと考えてございます。

(佐々木危機管理監)

避難のあり方という部分でお話したいと思います。説明会を受けて参加者を見て多い少ないという判断はあるかと思えます。そういった中で、今回、浸水想定範囲が非常に広がっているという部分もあり、もう1回ゼロに近いところから地域に入り、例えば自主防災組織などを中心に、避難のあり方を構築して、どういう逃げ方をするのか、どういう避難所、避難場所が必要だということから話をしていかなければならないと思っております。リスタートというように思っただけであればと思えます。これから各地域に入り、現状自主防災組織が結成されているところについては、基本的なところをもう1回確認し、しっかりと逃げられる体制があるのかどうなのか、訓練をどういうふうにしていくのかなどを話していきたいと思えます。できてないところについては、結成を目指してどのように取り組んでいくのか、どのようにみんなを避難させるかということと一緒に計画して参りたいというように思っております。

高速道路の利活用という部分でございますが、それは我々も考えているところで、関係機関等とは話をしています。ただ、基本的に事前に人が高速道路に入れる細工は難しい部分もありますが、国の方の意見も伺いながら、計画を立てていきたいと思っております。いずれ、浸水想定が広まったということは、逃げる対象の人が増え、さらに被害の面積が広いということは、逃げる避難場所が少なくなったということになりますので、まだ計画の段階ですが、広域連携なども考えていかなければならないと思っております。

(丸木委員)

先ほど話にあったように、様々な想定の上に、一応の最大という形で最悪条件の場合のマップや説明書が今度できたわけですね。その中で、浸水区域を示した地図のピンク色が濃かったり薄かったり、これらが非常に見えにくいと思えます。どこまでが何メートルという濃さがよくわからないため、もっと色分けを鮮明にした方がいいのではないかと思います。また、色々なケースが考えられるため、最悪の場合には、日中を想定したのではなく、夜間を想定したことも考えなければいけないと思えます。時間的な場面で、もし、こういう津波が来たときにはどう対策したらよいのかなどが必要なのではないかと思います。

もう一つは、自分たちがいるところは、どのぐらいの水が、どのぐらいの高さで来るのかということを住民は知りたいと思えます。先ほどご説明にもございましたように、例えば保健福祉センターに青い線でここまで水が来たという表示がありますが、公的機関が点々としているため、今度の場合、公的機関のみへの想定表示だけでは、不十分なのではないかと思います。東部地区、または釜石地区に住んでいる住民がその時間帯に自分の自宅にいるとは限らないため、ここにはどのぐらいの高さの水が来て、どこに避難したらよいのかの判断基準となるものが必要だと思います。これはあくまでも東北電力さんの協力を得ないとならないですが、市内で多く目立つ印をつけられるのは電信柱だと思いますので、各電信柱にここはこういう想定浸水がきそうだという表示が必要だと思います。行政としても、色々な課題があるかもしれませんが、参考までにそういう目印が必要なのではないかと思います。

また、大町の復興住宅1号棟に住んでいますが、44世帯入っております。東日本震災後、高齢者や体の不自由な方で自分自身では逃げられない方が、結構多くなっております。例えば、復興住宅1号棟の自治会の役員会で、6階建てだけれども各階の階層の高さは何メートルあるのかという質問がありました。大町にある住宅センターに行ってお聞きしたところ、建物の図面で何メートルかを示してくれました。例えば何メートルという水が来る場合に、上の階に引き上げる方法など、自分の周りのことを自分たちでどう考えていくかが必要だと思います。東部地区でも相当な棟数が建っており、そういうところでは、おそらく上階に逃げろという指示が出ているかと思っておりますので、そういう具体的な目安が第一であればよいと思います。自分たちのところは、どういう高さの水が来るかという一つの予想を普段から目にして、どこにどういうふう逃げたらいいのかという、一人一人の判断が大切になってくるのではないかなと思います。早い時期に、そういうものを進めるためには、何が可能なのかを地域に示す必要があるのではないかと感じました。

(佐々木危機管理監)

図面がわかりづらいことについては、現段階で県の方で出してもらったものを今ご説明申し上げましたが、これから県の方でももう少し詳細なものをどうやって出すのかというところを検討してもらっていますので、少しお待ちいただければと思います。

日中だけではなくて夜間も想定するという話でございますが、国の方の想定の際は被害想定まで出してその中で、3パターンの想定をしておりました。日中、夜間、避難があまりなされなかった場合、そういう形で想定をして出していました。県の方も8月には被害想定を出したいということで取組を進めておりますので、そこを見ながら我々の方でも対応していきたいと思っております。

それから電信柱に浸水想定等があればということについては、これからの計画の中で皆様のご意見を頂戴しながら、そういったことにも対応して参りたいと思っております。

また、復興住宅等、要支援者、垂直避難については、一般的に皆さんに同じような避難の仕方を説明をしても、当てはまる人もいれば、当てはまらないということもあり、例えばその復興住宅の中の自主防災組織でどういう逃げ方をするのか、行政からどういった支援が必要なのか、どういった道具が必要になってくるのかというようなことを、自主防を組織しながらベストな避難ができるように一緒に取り組んでいきたいなと思っております。

○釜石市新市庁舎建設についての質問・意見

(嶋委員)

私、実は新市庁舎検討委員会の委員も兼ねさせていただいております。当審議会に他にも兼ねさせていただいている委員もおられますけれども。間近に次の委員会の開催も予定されておりますので、公の席で質問なり意見を2件述べさせて頂きたいと思っております。一つ目は、天神町に安全安心で利便性の高い、庁舎を建てるということで、委員会も一生懸命頑張っており、計画がまとまって建てるという案ができたわけですが、台風19号の洪水、その後、国の浸水想定が出て、1m盛土して、これでいけるとなりました。ところが、県が3月に最大浸水発表するという事で待っていたわけですが、先ほど市長もおっしゃられましたけど、市長さんが建てますよと言えば、そのままスタートできる状態なわけです。それで、今、私がお聞きしたいのは、簡単に言えば、その目的と手段ってありますが、安全安心の市役所を作りたいというのが目的だったのが、手段である天神町に市役所を作るというのが、目的になっていて、その方向の話一辺倒ですということなんですね。実は今日の午後、東京電力の勝俣元会長の民事の裁判判決がもう出たと思うんですけど、来年1月には控訴審の刑事裁判の判決があります。これは、津波浸水想定があったのに対策を怠ったとその責任を問われているわけです。先ほども申し上げましたけども、津波浸水想定区域に、建てたから被害が起きたとなつては、やっぱりまずいと思うんですね。それで、今この状態で、市庁舎と避難場所を全体的に結びつけて、建設を考えてるようですが、本来、市役所と避難場所は別ですよ。市役所があるから、避難所に使いたい。或いは、同じような場所にあるから作りたい。東部地区の発展といいますけども、市民としたらどの地区に住んでいても、発展は願っているわけですから、東部であれ西部であれ平等

だと思っんですね。やっぱり浸水区域以外に建設して、例えば高速道路のインターとかもできてるわけですから、そういったものを活用した新たな新都心というようなものを作って、東部とともに栄えていくとか、あと東部地区からも、これを言うとなんだと言われるかもしれませんが、東部地区からの発信というのがあまり多くないのではないかと思っんですね。東部地区の産業界とか地域の方とかに絶対東部地区に市役所は必要だから建てて欲しい、或いは、そういう思いを皆さんわかってください、ともに栄えましょうというような、アピールも多くはないので、この状態で他の地区に市役所を建てて、釜石全体の繁栄をどう見るかと、そういった視点の話もあまり私は聞いてないので、その辺をお願いしたいと思っます。

(藤井新市庁舎建設推進室長)

我々としましては、歴史背景を踏まえましても、東部地区は市全体の繁栄に大きく影響する地区であると、地理的な面も含めて思っしております。ただ、そういう方向でお話する中で、賛成意見としてなかなか出てこないというようなところがあると思っしております。今、一つしかない庁舎というところで、避難場所というお話もございましたが、2つ造ればそういった形も考えられるかもしれませんが、二つ建てる考え方も具体的にない中で、今、建てようとしている庁舎が一番効果的である形というのは、この東部地区だと思っます。地元の活性化、ひいては市の活性化、さらにはその地域の安全というところを担保できるような形というのが、最適ではないかと思っているところでございます。

(島委員)

もう一つ、資料の10ページをお願いしたいと思っます。津波対策の比較一覧のE案ですが、右上の側面図に何気なくこの水色の浸水っていうのがありますが、これは、右側に釜石市街地に繋がり、釜石湾に繋がり、太平洋に繋がり、日本海溝に繋がるといった状況ですね。だから、単なる水たまりではないということなんですけど、それはそれとして、今から私が言うのは、前の質問とちょっと違っているので、どうなのと思われる方もおられるかもしれません。実はこのE案は、一番左に原設計がありますが、ほとんど原設計ですね。市庁舎の1階というのは、もともと3分の1程度右側が市民のホールになっていますから、オープンスペースなわけです。ですから、全体をオープンスペースにするといっても、まあまあある程度のお話です。市川市の例を持ってきて職員がパソコン持ってきてテーブルで応待すると。それが先にあったわけじゃなく、これは後付けの考えですよ。でも、そういう対応をしても、3年後にはテーブルがデスクになり、5年後にはパーテーションで仕切り、10年後にはカウンター作っると、結局原案のように、市民課の応対場所になっていると思っます。私は震災後、避難道路と市営ビルの前の広い道路、どういう経過でできたのかと聞きましたけど、建設課では資料が流されて、全て分かりませんということでした。だから、計画が最初はきちりしていても、時の経過とともに、やはり思いを忘れて、利便性に流れていく。そういうわけですから、7,000万円の設計費をかけて、1階をフリーにして、市庁舎の建物の容積が増えないようですから、ますます手狭になる。そういうことであれば、1階の浸水を容認する。その中で、今の原案の市民との直接のカウンターを作り、これからはデジタル化も進むわけですから、データ等はバックアップをとる。電源等は、床面じゃなく天井からとる。情報ケーブルも天井からとる。何かあつたらそのパソコンなり設置物を、すぐ退避できるようにするとか、もう一度この原設計っていうものを、検討した方がいいのではないかと思っのですが、答弁をお願いしたいと思っます。

(藤井新市庁舎建設推進室長)

ここまで高い金額になるというような想定してなかった部分で、実際窓口空間として使うところと、周りの部屋の使い方というところまで含んで設計変更したときに、どのぐらいかかるのか数字を出したものでございました。ただ、ここの空間の考え方については、対策として、例えば机等、カウンターテーブルを固定式としない中で、そういう上物の動かしやすさ、アレンジしやすさは効果があると思っています。そういった意味では改めて、現設計をベースに検討委員会等も含めて、ご意見を頂戴して参りたいと思っています。改めてご協議させていただければと思っます。

(小泉会長)

今、働き方改革といいますか、場所のあり方は本当にどうにでもなると思います。例えば東北電力では、自分が好きなところで好きに働いて、それに少し固定した場所があり、書類もほとんど置いていなかったと思います。やり方はいくらでもあるので、意見を踏まえて、市民が使いやすいようなものが考えられるのではないかというように思いました。

(上村委員)

令和の大改革ではないですが、もし、将来、大槌や遠野などと合併になった場合は、やはり高速道路の近くである上中島のところが一番いいのではないかと考えています。

そして、昔は色々な住民登録、証紙とか取りたいときは、市役所まで来ていましたが、今は支所で取れるようになったので、市役所まで来ることはほとんどなくなりました。いろんな機械化が進んでいけば、重大なこと以外は各支所でできるようになるのかなと思います。そういったようなところも加味して、長い目で見たならどうなのだろうかという参考意見です。

(横澤委員)

未来づくりプロジェクトの方にも参加させていただいておまして、多分この先DXが活発に進んでいくと思いますので、実際に市役所の方の手続きも自宅にいてパソコンでできるような形で、今検討している可能性もありますし、オンライン会議ツールとかも盛んに使われるようになって、相談業務すらもオンライン会議ツールを使ってできるような可能性は十分にあると思います。ですので、決してそんなに広いスペースではなくて、限られた窓口対応だけでも十分に可能なのかなというように感じております。フリースペースとしてもともと3分の1考えられていて、この最低限の市役所の機能を下の市民課として使うのであれば、もう十分に3分の1が市民課ぐらいのイメージで進められる可能性もあるので、もう少し予算も見直しをかけられるかなと思います。また、少子化が進んでいますので、人口がこの先増えることが釜石にとってはすごくいいことだと思いますが、現実としてそれがなかなか難しい状況であるならば、この建物自体の規模も、もう一度見直しかけるということも必要なのかなというように感じました。

(小泉会長)

色々意見があって当然でございますし、今の流れも当然できてくるのではないかなと思います。今のご意見を十分聞きながら、前に向かって進め、色々な会議もありますので、今のご意見を十分に含めながらやっていただければと思います。